



【青島支店】

「青島における交通インフラ整備について」

1. はじめに

高度成長が鈍化し始めた中国ですが、景気の下支え策としても交通インフラ整備は積極的に行なわれており、特に空港や地下鉄の開発は急ピッチで進められています。

青島においても、工期の延長により開通が度々延期されていた地下鉄が、ようやく 11 月末に、一部区間において試運転を開始するとのニュースがありました。

青島における地下鉄整備は 2009 年、「青島市都市快速軌道交通ネットワーク計画」により 2050 年までに全 8 路線の建設を進める方針が発表され、計画に基づいた第一期地下鉄工事（地下鉄 3 号線）が 2010 年 7 月に着工されましたが、工事難航もあって当初 2014 年末に全線開通としていた計画が、大幅に遅延する事態となっていました。今回 11 月に試運転を開始するのは地下鉄 3 号線のうち一部区間ですが、第一期地下鉄工事は、既に 80% 程度の土木建築工事は完了し、現在は機械設備の取り付け段階に入っているとのことであり、青島市民が待ち望んでいた地下鉄がようやく開通する運びとなりました。



公開された青島地下鉄の駅内部の様子（出典：青島地下鉄公式 HP）

2. 青島におけるインフラ整備

青島における交通インフラ整備において、もう一本の柱が新空港（仮称：青島胶東国際空港）の建設です。新空港は青島市北部にある胶東市に建設され、現在の青島流亭国際空港より更に大規模な空港となることが決まりました。既に国家発展改革委員会から正式に国家プロジェクトとして承認を得て、2015年から総工期4年の予定で工事が開始されています。

2019年竣工予定で、工事開始（2015年）から10年経過後の2025年には、旅客取扱数年間3,500万人、貨物取扱量50万トン、総投資額は415億元（約7,897億円）、最新の大型旅客機も発着出来る巨大空港となる計画です。



新空港の模型（出典：チャイナネット）

元々青島は、中国東部沿岸の要衝にあることから、海外からの投資や近代的なハイテク産業が育ちやすい環境にあり、近年では国際的な沿岸リゾート地としても有名な場所となりつつあります。

青島市としても、国際貿易のセンター都市、沿岸リゾート地といった発展目標に「適住居都市」（住みやすい都市）という目標を加えて、新空港によるアジア各国へのアクセスの向上、また地下鉄や電動バスの導入により交通の利便性を高める努力を行っています。

3. 中国における公共交通事情

物価が年々上昇し、住宅や食費のように、既に日本とあまり変わらない水準に達しているものもある中国ですが、政策的に公共交通運賃は抑えられています。地下鉄を例に挙げれば、日本の地下鉄運賃を200円～250円程度とすると、中国の場合は50円～150円程度です。ただし、公共バスは更に安い20円～40円が主流であり、庶民の交通手段としてはまだまだ公共のバスが主役となっているのが実情です。

また、地下鉄はバスに比べて面倒な手続も特徴的です。都市によって若干の違いはありますが、赤外線による持ち物検査、ボディチェック、更に飲料水を所持している場合は例え未開封の新品であったとしても、開封して検査官の前で一口飲まなければならない等の厳しいチェックを受けなければ乗ることができません。

しかしながら、渋滞が激しく、交通マナーが決して良いとは言えない中国において、時間通りの運行が望める地下鉄はニーズが高く、近代化の象徴としても地下鉄の整備は国の重点政策として位置づけられています。

4. 終わりに

中国に来られた方が、まず最初に驚かれるのは、街のあちらこちらで様々な開発工事が行われていることではないでしょうか。自転車に乗った中国人がたくさん走っている姿は、もはや見られません。道路を走る車は外国産の高級車が目立つようになり、多くの高層ビルが立ち並んでいます。

中国は経済の減速、為替の影響による日本企業撤退のニュースが伝えられている昨今ではありますが、依然として成長は続いており、インフラ整備も着々と進んでいます。青島では、外資の取り込みと観光地としての発展に向けて国家レベルの取組みが続いており、大型商業施設や韓国企業等の進出も相次いでいます。今後も、山口銀行青島支店では中国への進出を検討されている企業様をはじめとするお客様からの様々なご相談をお待ちしております。

換算レート：1元=19.03円

以上